



岩手県立大学 看護学部 基礎看護学講座の紹介

Iwate Prefectural University



基礎看護学とは…

基礎看護学（Fundamental Nursing）とは、看護について専門的に考え学ぶ第1歩となる、看護教育の基盤となる領域です。基礎看護学講座では、根拠に基づいた看護教育を目指し、看護の基盤となる基礎的な知識・技術・態度について追究しながら日々の教育研究活動に取り組んでいます。
理論看護学、**看護技術学**、**心身機構学**の3つの研究分野から成り立ち、現在9名の教員がいます。



教育活動について

教育活動では、多くが1・2年次の専門科目を担当することから、3つの教育研究分野が連動しながら各臨床看護学領域の基盤となる素養の涵養を目指しています。



演習授業の様子

理論看護学

看護の対象や人間の健康、看護の歴史、専門職としての看護職者の役割などについて教授します。

看護技術学

対象者に共通し基本・基礎となる食事援助のような生活援助技術と注射のような治療援助技術について教授します。

心身機構学

人体の形態と機能、病因・病態、生体の防御機能などからだの仕組みと病気について教授します。

この3つの分野が連動しながら教育研究活動を行っています

研究活動について

地域に根ざし地域に貢献する研究活動

東日本大震災の被災者への健康支援として、地域のボランティア活動団体と協力し、継続的に健康相談や健康指導を行っています。また、現場で働く看護職の方に看護技術に関する研修会を開催し支援しています。

看護基礎教育の充実を目指す研究活動

基礎看護学実習の前に、地域ボランティアの方々を活用した模擬患者演習授業を行っています。とても貴重な学習機会になっています。



基礎看護学実習前の模擬患者演習

看護技術の科学的根拠を探究する研究活動

注射や薬剤の傷害など現場で起こる看護技術の疑問や課題について、基礎的実験を行い検証し、科学的根拠を追究しています。



実験室ラボで卒業研究に取り組む

基礎看護学講座で卒業研究に取り組んだ卒業生たちが、学会で発表したり、本学の大学院に進学したり、臨床現場で指導者となったり、教員として大学に戻って来て学び続けています。

「基礎看護学」は、看護学の基盤となる領域ですが「初心忘るべからず」「初心にかえる」などの言葉があるように、いつの時期においても立ち止まり振りかえる際の基点になる領域です。

看護は、一生かけて学び続けていく職業です。

多くの方との出会いから、私たち教員も日々学ばせていただいています。



= 基礎看護学講座の研究活動について =



看護技術に関する研修会

基礎看護学講座では、岩手県内の看護職者を対象に「看護技術に関する相談・支援事業」の研究プロジェクトとして研修会を継続的に開催しています。看護職者が現場で実践している看護技術に関する最近の話題や最新の知識を伝えることで、日々の実践活動の疑問や課題を解決し、能力の向上を図ることを目的としています。

研修テーマや内容は、研修会終了後アンケートに寄せられた意見をもとに検討することで、現場のニーズに応じた質の高い研修会となることを目指しています。

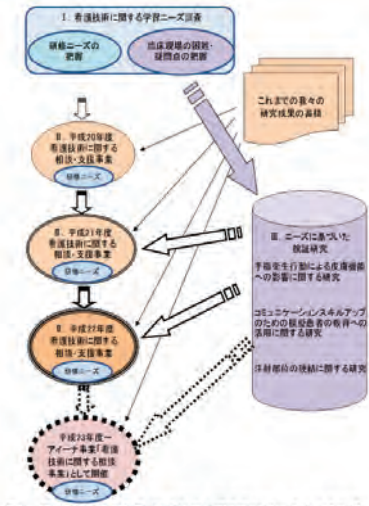


図1 平成20年度から平成23年度の研究プロジェクトの全体像

<2020年度 研修会終了後アンケートの結果>
 ■参加者の満足度：「大変満足」38.1% 「やや満足」61.9%
 （「どちらでもない」「やや不満」「不満」の回答は無かった）
 ■研修が実践に役立つかどうか：「そう思う」66.7% 「ややそう思う」33.3%
 （「どちらでもない」「あまりそう思わない」「そう思わない」の回答は無かった）
 ⇒理由としては、「理解した部分が役立つと思う」「今後にいかしていきたい」といった意見がみられ、研修で理解できた内容を職場で役立てていきたいという思いが伺えた。

表1 看護技術に関する相談・支援事業の活動経緯

看護技術の大項目	事業名：看護技術に関する相談・支援事業			看護技術の大項目	事業名：看護技術に関する相談事業							
	研修テーマ	平成20年度 (2009年度)	平成21年度 (2010年度)		平成22年度 (2011年度)	研修テーマ	平成23年度 (2012年度)	平成24年度 (2013年度)	平成25年度 (2014年度)	平成26年度 (2015年度)	平成27年度 (2016年度)	平成28年度 (2017年度)
創傷ケア	スキンケアの基本 ～創傷ケア	東京大学(4)	アイーナ(2)	アイーナ(3)	創傷ケア	スキンケアの基本 ～創傷ケア						
褥瘡予防	褥瘡予防 ～褥瘡予防	東京大学(4)	アイーナ(2)	アイーナ(3)	褥瘡予防	褥瘡予防 ～褥瘡予防						
点滴管理	点滴管理 ～点滴管理	アイーナ(4)	高山市(1)	一関市(2)	点滴管理	点滴管理 ～点滴管理						
感染対策	感染対策 ～感染対策	アイーナ(4)	高山市(1)	一関市(2)	感染対策	感染対策 ～感染対策						
救急処置	救急処置 ～救急処置	アイーナ(2)	アイーナ(1)	アイーナ(1)	救急処置	救急処置 ～救急処置						
その他	その他 ～その他	アイーナ(2)	アイーナ(1)	アイーナ(1)	その他	その他 ～その他						
参加人数 (総人数)		121/288人	84/145人	122/244人								

出典：岩手県立大学看護学部紀要 vol.19 2017



模擬患者演習授業

地域ボランティアの方々を活用した模擬患者演習授業の取り組みをご紹介します。



模擬患者 (SP : Simulated Patients) とは

模擬患者とは、医療者（学生）の教育のために一定のトレーニングを受けて患者役を演じる人と言います。1964年にアメリカの医学教育で始まり、日本では日野原重明先生がその必要性を唱え、1992年から医学教育分野で導入されるようになりました。看護教育分野では2000年以降急速に導入されるようになってきました。

模擬患者を活用した教育で目指すこと

- ◆学生の医療場面におけるコミュニケーション能力の向上
- ◆患者中心の良い看護を実践するために、模擬患者と学生・教育者がともに語り合うこと

<模擬患者が看護学生の演習に参加した感想>

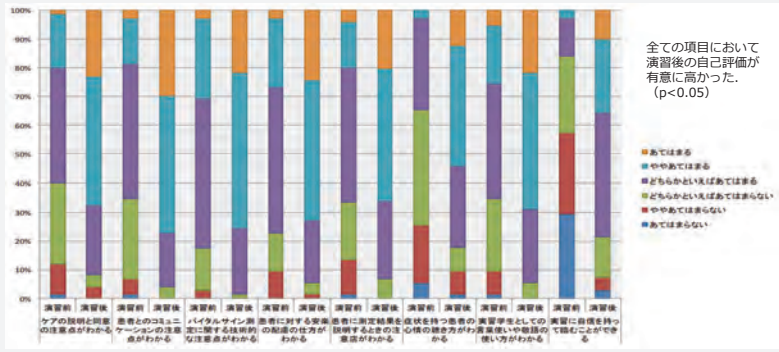
- ・現在、あるいは将来、高齢者として看護師に支えられる身である自分が、その教育に関われることに対する喜びを感じた。
- ・日常生活中での周囲の高齢者への関心が高まった。
- ・模擬患者の看護学生にとっての重要性を感じた。

(第9回 岩手看護学会学術集会,2016 発表)

<学生が模擬患者演習を行った感想>

- ・緊張感を持って臨めた。
- ・学生同士ではどうしても患者役が手助けをしてしまったりして、質の高い練習にならないので模擬患者演習は良かった。
- ・模擬患者さんからOKを貰うと自信になる。
- ・人の演技を見ていると何が大切かがよくわかる。
- ・自分の話し方の癖に気付かせてもらった。
- ・患者さんがわからない可能性のある専門用語を、気付かずに話していたことに気付いて良かった。

表2.演習前後におけるバイタルサイン測定、患者とのコミュニケーションに関する学生の自己評価



全ての項目において演習後の自己評価が有意に高かった。
(p<0.05)



<模擬患者演習の様子>

(第40回 日本看護研究学会学術集会,2014 発表)

= 基礎看護学講座の地域貢献について =



東日本大震災被災者の健康支援

基礎看護学講座では、東日本大震災発災翌年の平成24年より被災者の方々への健康支援を継続して行っています。沿岸から盛岡のみなし仮設に避難した被災者を支援している「SAVE IWATE」のボランティアの方々と協働し、医療職の立場からの支援を行っています。

SAVE IWATEの活動の一つ「復興ぞうきんプロジェクト紡ぎ組」は、被災者の方々が寄付のタオルや手ぬぐいから作ったぞうきんを持ち寄り、お茶を飲みながら語らう場です。私たちは、その場にお邪魔し、希望するの方々に対して、脈拍、血圧、経皮的動脈血酸素飽和度の測定や自覚症状をうかがって健康維持のための助言をしたり、心配なこと、大変なこと等のお話を傾聴したりしています。

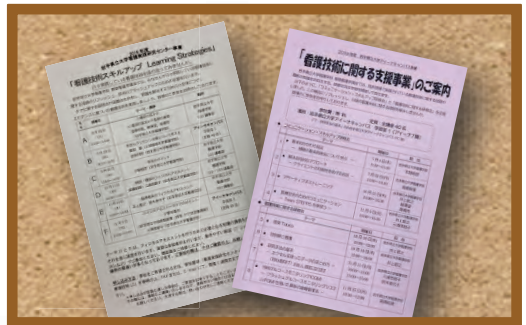
震災前から多くの方が慢性疾患の既往があったことに加え、震災から10年以上経過して高齢化が進み、身体症状の増加や、会話の様子から認知機能の低下も心配されます。さらに、近親者の逝去など環境の変化に伴う心身の不調を訴える方もあり、未永い支援の必要性を感じています。



県内看護職・福祉職の看護技術ブラッシュアップ支援

基礎看護学講座では、平成23年度より、岩手県内の看護職者を対象とした「看護技術に関する支援事業」として研修会を継続的に開催しています。ここでは、看護職者が現場で日々実践している看護技術に関する知識のリフレッシュ、技術のブラッシュアップのための支援を行っています。最近の話題や最新の知識を伝えるだけでなく、その知識をもとにした演習を多く取り入れています。ケアに関する疑問点や困難点を共有し、問題を解決するための力を身につけ、エビデンスに基づいた看護技術を現場で実践していただくことを目的としています。

研修テーマや内容、開催場所は、研修会終了後アンケートに寄せられた意見をもとに検討し、現場のニーズに応じた質の高い研修会となることを目指しています。



＜2019年度のアンケート結果自由記述欄より＞
◆「曖昧になっていた心電図について基礎から学べて良かった。」
◆「知らなかった有害事象を知ることができ、エビデンスを踏まえた看護ケアが必要であると改めて考えることができた。」
◆「後輩に指導を行うときに理論づけて説明ができた。」
◆「解剖と実技を両方できたことで、理解を深めることができた。」 etc...
⇒講義だけでなく、その場で演習をすることで知識の定着を図ることができた可能性がある。患者への看護実践につながる新たな知識を得るなど、技術の学び直しとともに、職場で他職員への指導・共有など学びの還元に結びついていた。



大学内の実習室で

参加者同士の実践的な演習

シュミレーターを用いた演習

盛岡駅近郊のアイーナ

キャンパスやWebでの研修会